園長だより

６月号

Ｈ２８．６．２７
新渡戸文化子ども園

「笑顔」と「品位」

遠足での子どもたち保護者の皆様の笑顔は、５月のさわやかな青空にとてもよく映え素敵でしたね。笑顔はいつ見ても嬉しく心が和みます。

３年前日本に帰国した際、友人に「電車の中で意味なく微笑んでいるのは気味悪がられるからやめたほうが良い。」とアドバイスをもらいました。日本人の親友と呼べる友人ですので、「そんなに笑顔？」と聞いてみると「かなりの笑顔だよ。」と言われました。仕事柄なのかと思いましたが、どうもそうではないのでは？という出来事がありました。

オーストラリア在住時にできたオーストラリア人の親友が、今年桜の季節に日本を訪ねてくれました。ご夫婦そろって言った言葉が「どうして日本人は、電車の中で皆怒ってるの？」なるほど。確かにオーストラリアでは、普段から口角が上がっていて笑顔の方が多かったなと、納得の質問でした。

オーストラリアは土地が日本の２０倍あり（ちなみに人口は東京都と神奈川県を足したぐらい）国内移動は飛行機が主流です。出張でメルボルンからパースへ７時間弱のフライトの際、満席で家族連れも多く中には日本人の家族連れもいました。オーストラリア人の家族は、子どもが（４、５歳ぐらい）着陸の際シートベルトを締めるのをいやで窓の外を見たいと駄々をこね、両親ともその子を自由にさせました。（最後は乗務員に注意をうけていましたが）ところが、日本人の家族は、嫌がっている子どもを（４、５歳ぐらい）しっかりと言い聞かせ、我慢させました。子は泣いていましたが、両親とも毅然としていました。とても対照的でした。

子どもの興味や意思を尊重することは大切ですが、社会のルールの中で自身の欲求ばかりに忠実であることは、子どもだからと言って良いわけではありません。人の欲望は無限大です。きりがありません。欲望を満たすこと自体は悪い事ではありませんが「どこまでを追求し、どこまでを我慢するのか。」の境目を自覚させることが「躾」と言えるのでしょう。

そもそも「自国での常識も国が違えば非常識となる。」国でも家でも地域でも同じことを幼少期から教えられてきたかどうかも、海外での振る舞いに大きく影響するのだそうです。他人を思い、自分を律することのできる、いわば「品位」は、誰かに教えられ、気づくことで身につくものだと思います。

近年は、日本における海外からの旅行者のマナーに起因する様々なトラブルも問題となっていますが、日本の良いところである「躾」を、２０２０年のオリンピックの際には、海外からのお客様に知っていただく良い機会となり、更に、受け入れる側のお顔が笑顔であふれていればと願っています。

つぶやき

（給食時、様子を見に行くとうどんを食べていました）

男の子「あーおいしいうどん」

園長「おいしそうですね。今日は山菜（さんさい）うどんですね。」

男の子（真剣なお顔で）「ううん。僕、４歳（よんさい）」

園長「そうですね」（あまりのかわいらしさに、大きな笑顔をいただきました）